

くまもとアートポリス 対象プロジェクトへの 参加募集

公共・民間を問わず、くまもとアートポリスへの事業参加を求めています。くまもとアートポリスコミッショナー磯崎新氏がプロジェクトにふさわしい建築家やデザイナーなどを推薦いたします。

関連事業スケジュール

くまもとアートポリス講演会
日時 10月7日 / 13時30分より
場所 熊本県立劇場演劇ホール
定員 1,000名
申込 くまもとアートポリス事務局

ハンスホライン氏来熊

オーストリアの建築家、ハンスホライン氏が総合福祉センター設計の打ち合わせに、4月21日来熊。県庁を訪れ、知事、磯崎コミッショナー、堀内熊大教授等と会見した。

そのあと敷地を見学。隣接地に計画中の篠原氏の北署プロジェクトの模型を見た。お互いに現代建築デザインの最前衛に位置する建築家同士。

「すばらしい。」と感想をのべながらも、建築デザインの対決に闘志を燃やしているようであった。新たな街づくりのきっかけとなりそうだ。

関連出版物

ポスター・パンフレット
アートポリスニュース

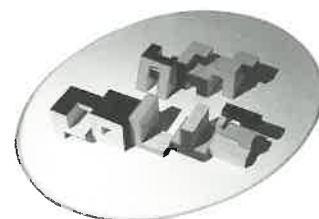
現在までくまもとアートポリス事務局では以下の出版物を作成しております。

1. 『くまもとアートポリスパンフレット』
2. 『くまもとまちづくりシンポジウム報告書』
3. 『アートポリス・ポスター』
4. 『くまもとアートポリスニュース 01』

これらの出版物をご希望の方は「くまもとアートポリス事務局」熊本県建築課内
(tel 096-383-1111<6220/6221>)までご連絡下さい。



01



熊本県全圏を舞台に繰り広げられる「くまもとアートポリス」。国の内外から建築家、デザイナーが英知を結集して、建築、集合住宅、橋などを設計し、デザインとアイデアを競い合います。

熊本の豊かな自然環境と歴史ある街なみを生かし、熊本独自の環境を産み出すべく「くまもとアートポリス」のプロジェクトがつぎつぎに建設されています。これらを核に点から線へ、線から面への広がりが期待されています。

豊かな環境形成への関心を高め、熊本独自の田園文化圏を創り出すことも大きな目的なのです。

すでに熊本市内の公衆トイレは竣工。そして、県営住宅、警察署、八代市の博物館、そして三角港では船客の待合所が設計を終え、建設の段階に進んでいます。

3年後の1992年には県内につくられた建築物、集合住宅、橋などを対象とする第1回目の国際建築展「くまもとアートポリス'92」が開催されます。「くまもとアートポリス'92」は世界に向かってその成果を発表することになります。

それ以前にも都市文化や環境デザインをテーマとするシンポジウムが毎年開催されます。その第2回目が今年の10月に予定されています。

『くまもとアートポリスニュース』では、プロジェクトの進行、建設の経過報告、講演会、関連の事業などを時々刻々と伝えていきます。アートポリスについてのご意見やご希望などをお寄せください。

KUMAMOTO ART POLIS



発行：くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内 熊本市水前寺6-18-1
tel 096-383-1111 (6220 / 6221)
編集：くまもとアートポリス コミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-5-7 本間ビル
建築・都市ワークショップ内 tel 03-407-4753

「建築革命」を熊本から

くまもとアートポリスが目指すもの

磯崎新

(くまもとアートポリスコミッショナー/建築家)

くまもとアートポリス構想は新しいタイプの街づくりのモデルになるだろう。

それは今後企画され、建設される主要な建物を、公共、民間を問わず、後世に残し得る文化遺産にしたい、とする細川熊本県知事の発想に始まった。1992年度に最初の建築博覧会を催すことを目標に、今、県各市町村が発注する主要な建物を国際的な評価に耐えるデザインとするよう建築家を選び、作業に入った。

すでに15件の施設が契約済みで、その半数は設計を完了している。その提出されたデザインを見ると、公共住宅、警察署といった固苦しいものに思われていた施設でさえ、その枠を破ったユニークなもので、今後の展開が期待される。

それに加えて、今回、外国人建築家起用の第一号として、ウィーン建築家ハンス・ホライン氏が県総合福祉センターの建築家に指名された。伝統と革新の双方から常に衝撃的なデザインを提出し続けてきたホライン氏の登用は、その企画をさらに進める上で大きい役割を果たすことになるだろう。彼は文化的資産と現代的革新、西洋と東洋、その中での熊本の位置などの問題を十分理解しており、この複雑な問題に意欲的に取り組む決意を語っている。

磯崎新プロフィール

1931年生れ。1954年東京大学建築学科卒業。1954年から63年まで丹下健三研究室に所属。主な作品：「大分県立図書館」、「北九州市立中央図書館」、「群馬県立近代美術館」、「神岡町役場」、「つくばセンタービル」、「MOCA」など。

このようなユニークな企画であるため、県をはじめとする自治体は、その発注形式も含めて、新しい対応をせねばならない。たとえば、公営住宅に、多様なデザインを生み、多くの建築家が腕をふるうためには、従来より設計料を上げる必要もある。そしてマスタープランも再編成されねばならない。このような問題をひとつずつ解決して進行させていくことは、[くまもとアートポリス]が単に一度の博覧会に終わらず、自治体を含めた地域全体の建築的な革命に役立つことだろう。

今後、牛深港(天草)に新設される橋も同じく外国人建築家に依頼する予定もあり、さらに数多くの日本人の若手の優れた建築家の起用も含めて、この企画は、国際的な注目を浴びることだろう。

それが最終的に全く新しい街づくりへとつながっていくことを考えると、建築デザインだけでなく、新しい社会的な住意識、都市観の変革へともつながっていくだろう。

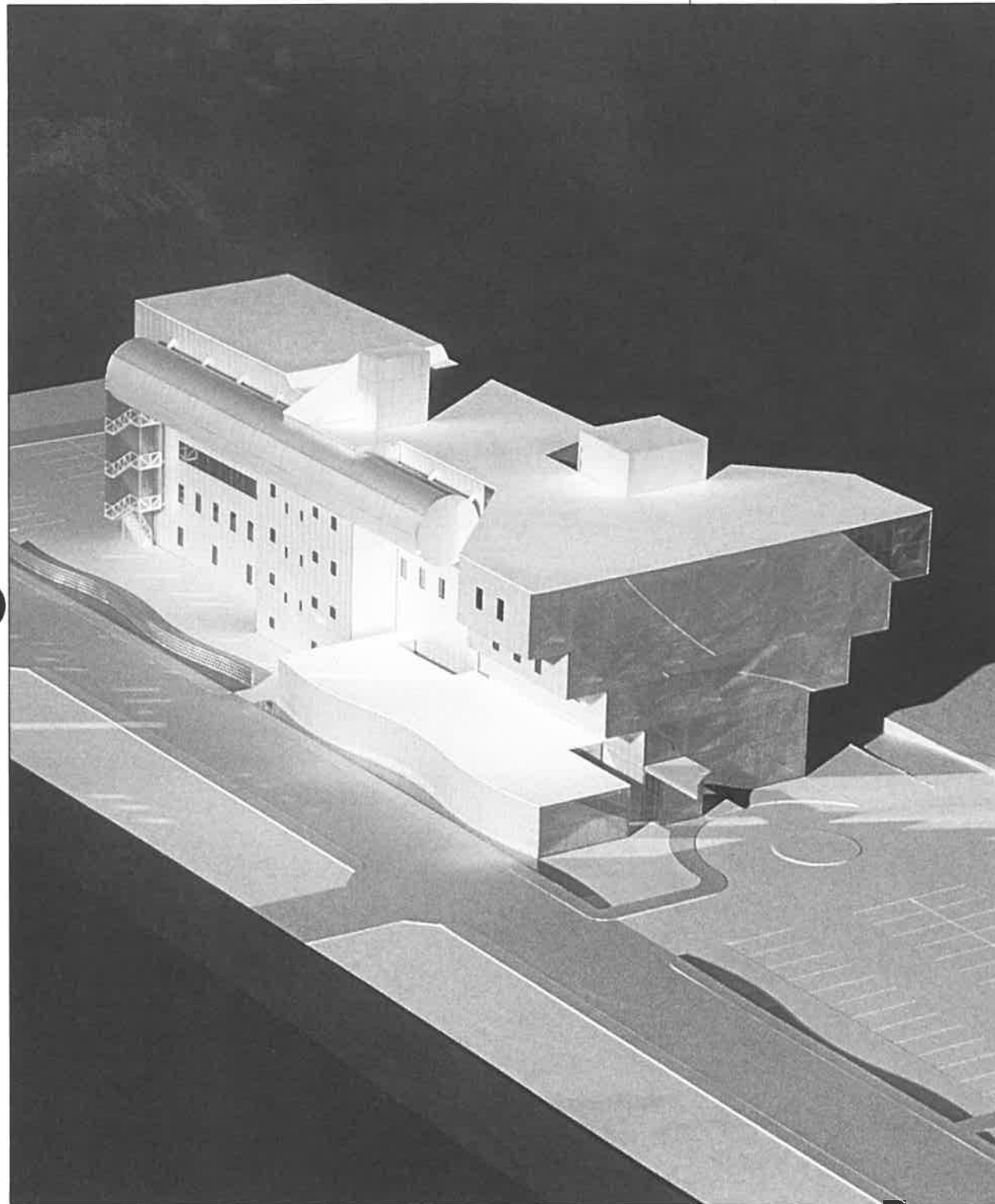
下/くまもとアートポリスポスター



くまもとアートポリスコミッショナーは国内国外を問わずプロジェクトにふさわしい建築家を選び、推薦する。また、くまもとアートポリスではアドバイザーとして熊本大学工学部教授の堀内清治氏を迎えている。

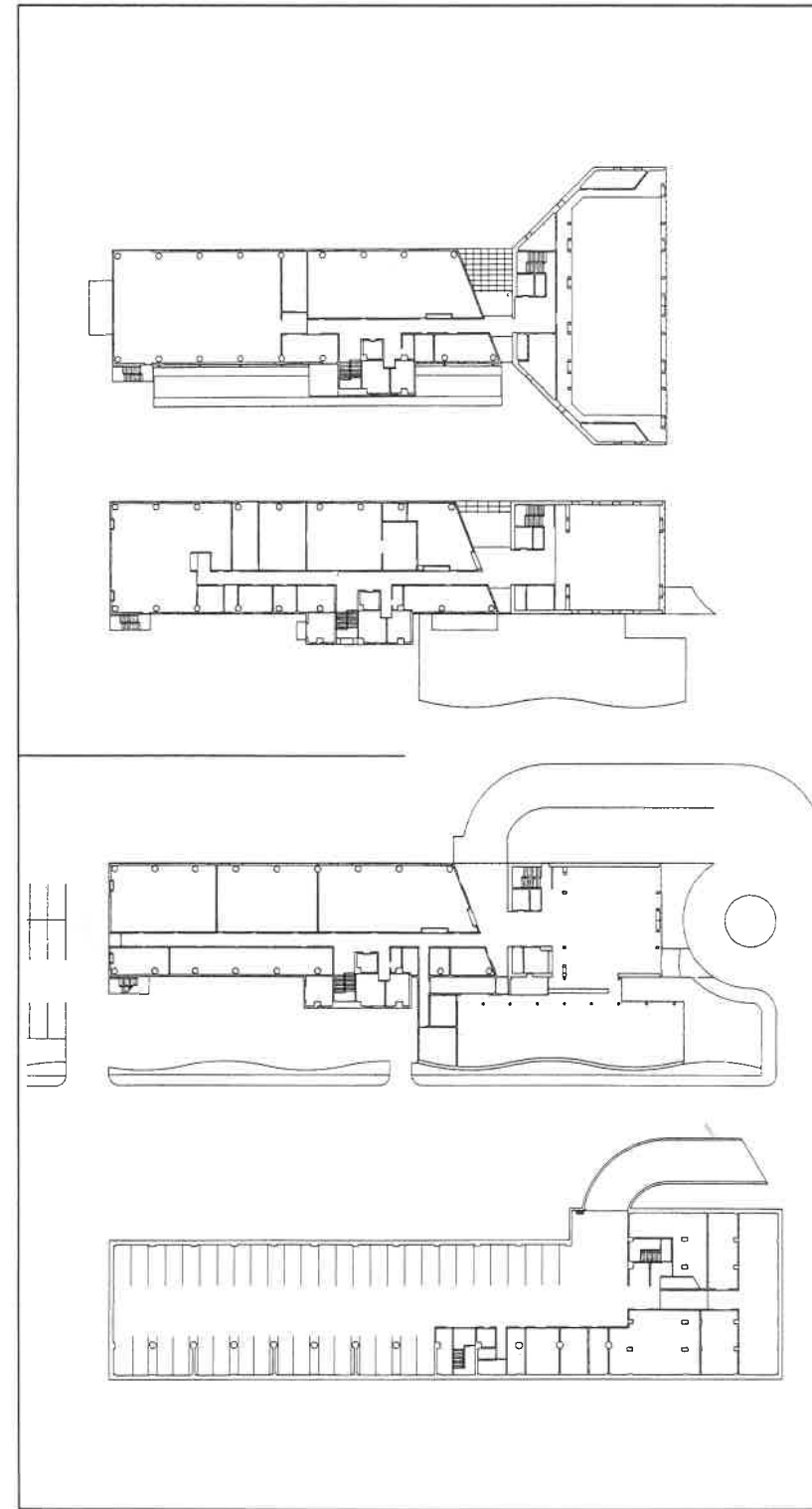
熊本北警察署

設計者 篠原一男氏に聞く



熊本北警察署
設計 篠原一男 + 大塚設計
熊本市草葉町5-13
竣工 1990年11月予定

4



●これが今度の警察署ですね。建物の正面はガラス張りですか？

「ガラス張り」の警察とシャレたわけではないんですが…。(笑)

常識的にいえば警察署は堅固で、閉鎖的なイメージですね。でも、そんな先入観はなしにガラスの大きな面をつくったんです。

われわれの提案に対して、警察署の対応は実に合理的でした。すなわち「ガラス張りでいけないという理由はない」というわけです。建築に対して明快な考え方をもっていらっしゃる。これが設計の段階で警察の方とお付き合をした印象です。

●篠原さんは住宅の設計で定評がありますが、今回の警察署は、まったく正反対のイメージですね。

警察署は建築家が設計することが非常に少なかった建築です。どちらかといえば専門にこのタイプの建築を手がける方が設計するものというもので、特殊建築というジャンルに属していたような気がします。

だから、住宅とそれ以外にはいくつかの種類の建築しかやっていなかったわれわれのところに、こんなプロジェクトがきたものですから、正直いってギョッとしました。今までは建築に威厳を持たせようとか、考えもしなかったから…。

もちろん、そんな心配は具体的な打合せのうちに、必要ないということがわかってきましたけれども…。

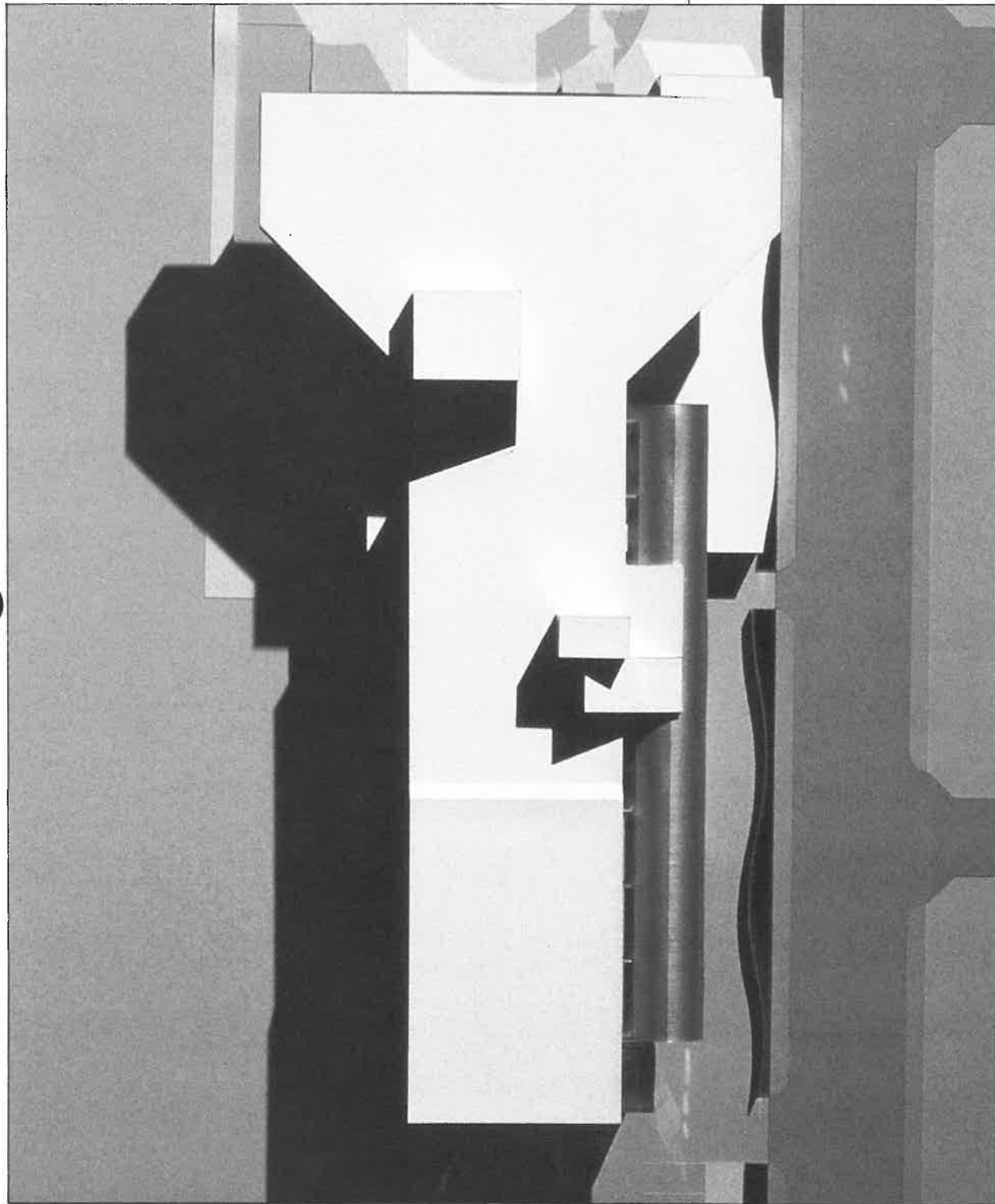
●いままでのイメージにとらわれない、合理的な考え方が可能だったわけですね。ところで、特殊な建築の計画手法などはありましたか？

各層平面図

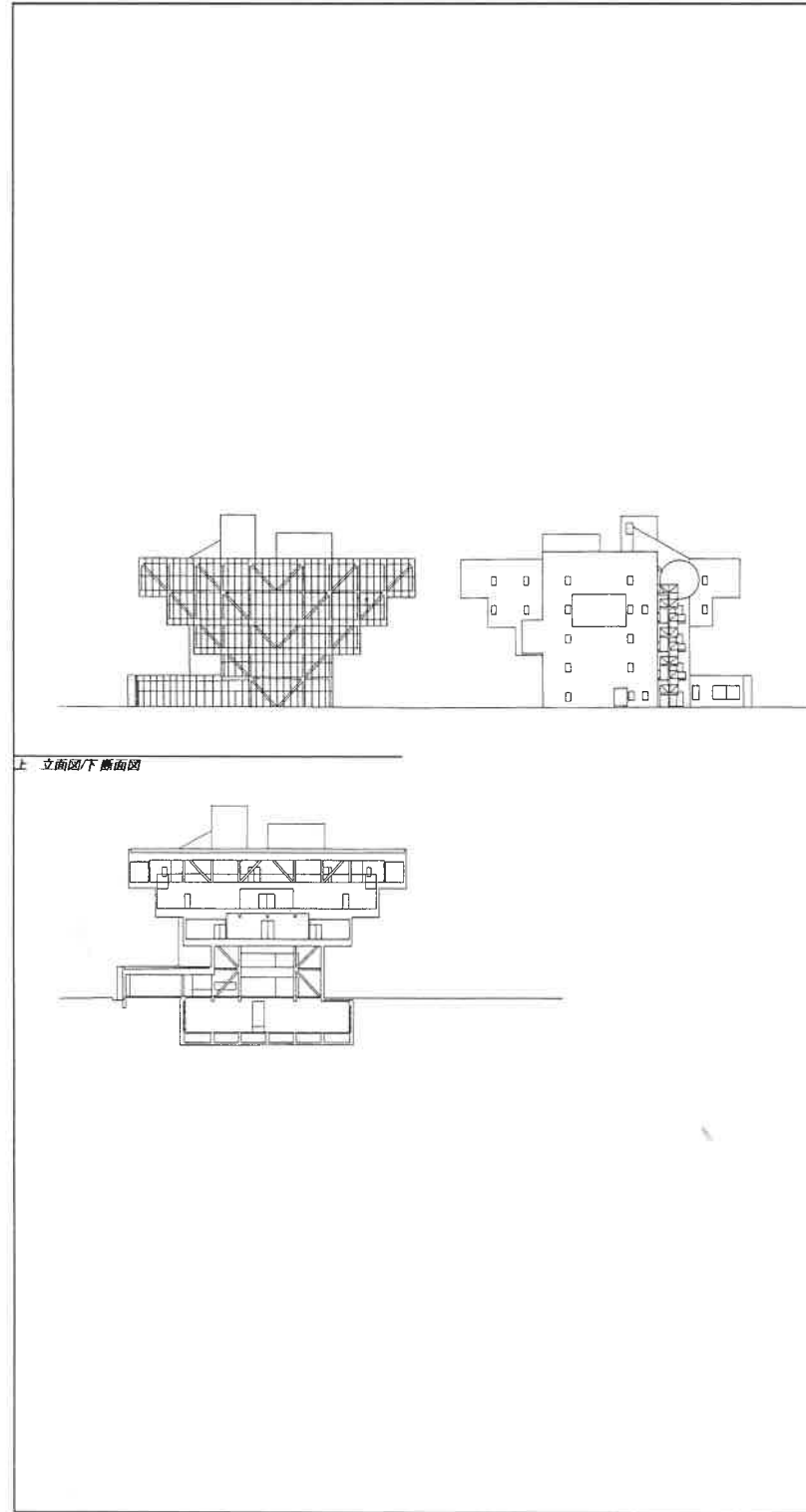
上より15階、2階、1階、地階

5

01



敷地面積 6,926.18m²
 建築面積 2,230.001m²
 延床面積 8,695.225m²
 構造 鉄骨+鉄骨鉄筋コンクリート造
 地下1階 地上5階
 最高の高さ 26.7m
 軒高 20.7m



上 立面図/下 断面図

具体的な要求条件はもちろんかなり複雑です。そう簡単につかめるものではありませんでした。その部分は今回共同して設計にあたった大宏設計が、熊本県南警察署の経験を生かして的確に把握していました。

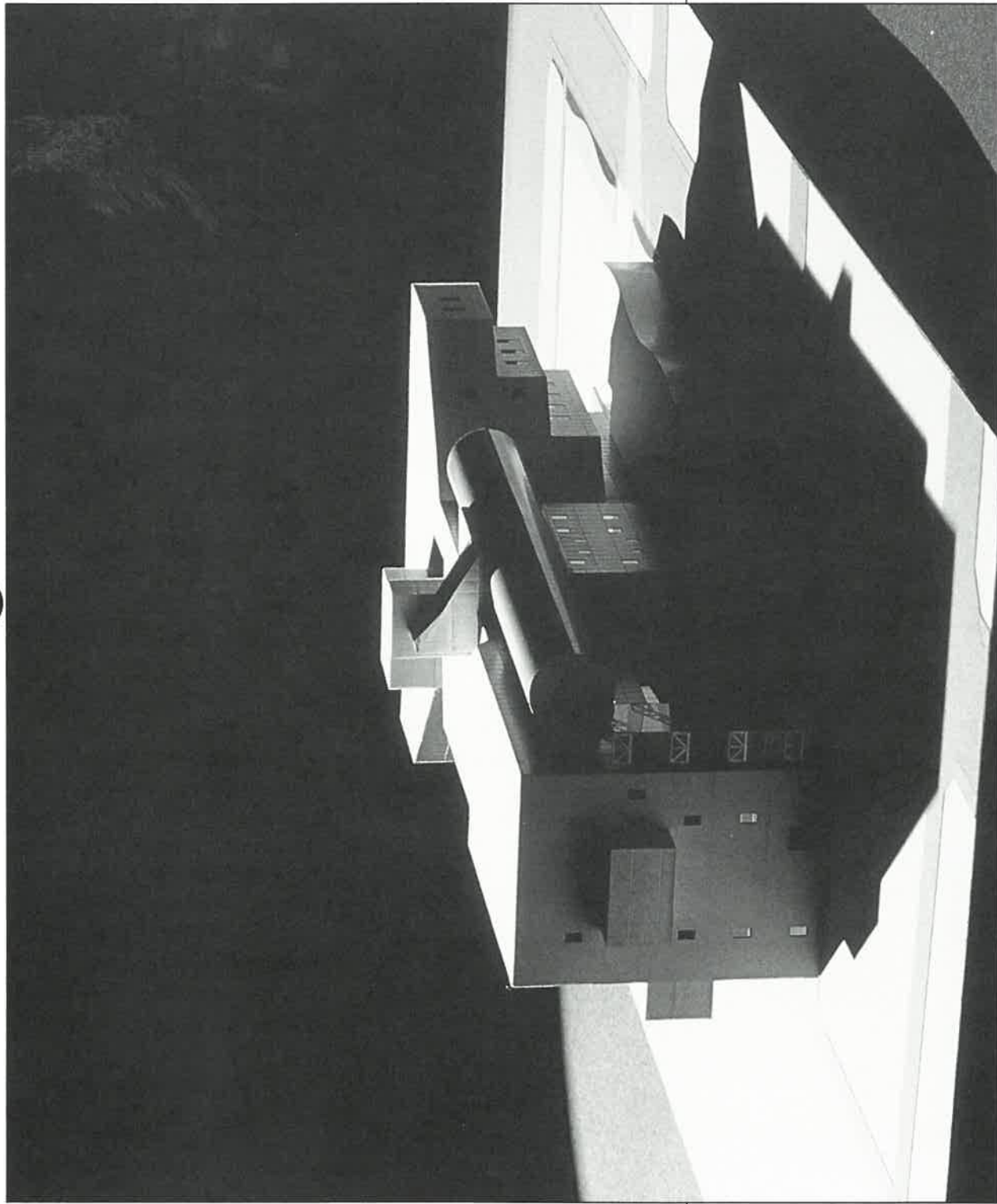
その結果こう整理できたんです。つまり特殊なオフィスビルを設計するんだと。いってみれば本社ビルのように考えていくのかなと、予測をたてていったわけです。つまり、単に機能を限定していないレンタルのオフィスフロアを設計するのではなくて、本社にしかないような特殊な機能を兼ね備えたようなビルですね。

ここにはもちろんロビーはありますし、指揮本部もある。そして、地域の子供たちも集まってくる柔剣道場も、ちょっと離れて免許の更新などを行なう交通課もあるというわけです。

●大きくふたつの塊に分かれていますが、国道側の逆三角形になっている部分が特殊な機能の部分ですね。ええ、もちろん他の部分の部屋の組み合わせもかなり複雑なものがあります。警察署ですから、職員と一般の人の動線が交じりあっては都合のよくないこともあるわけです。この内容に関しては、かなり細かく機能分けがなされているんですね。だから、この機能を実際の部屋の構成に割り付けていくのは、誤解を恐れずにいえば、一種のゲームではないかと…。かなり機械的に割り当てていったんですね。いいかえれば、雰囲気とか、感覚が入り込む余地がないほど、機能的な建築だということでしょう。

こんなことがありました。住宅を作

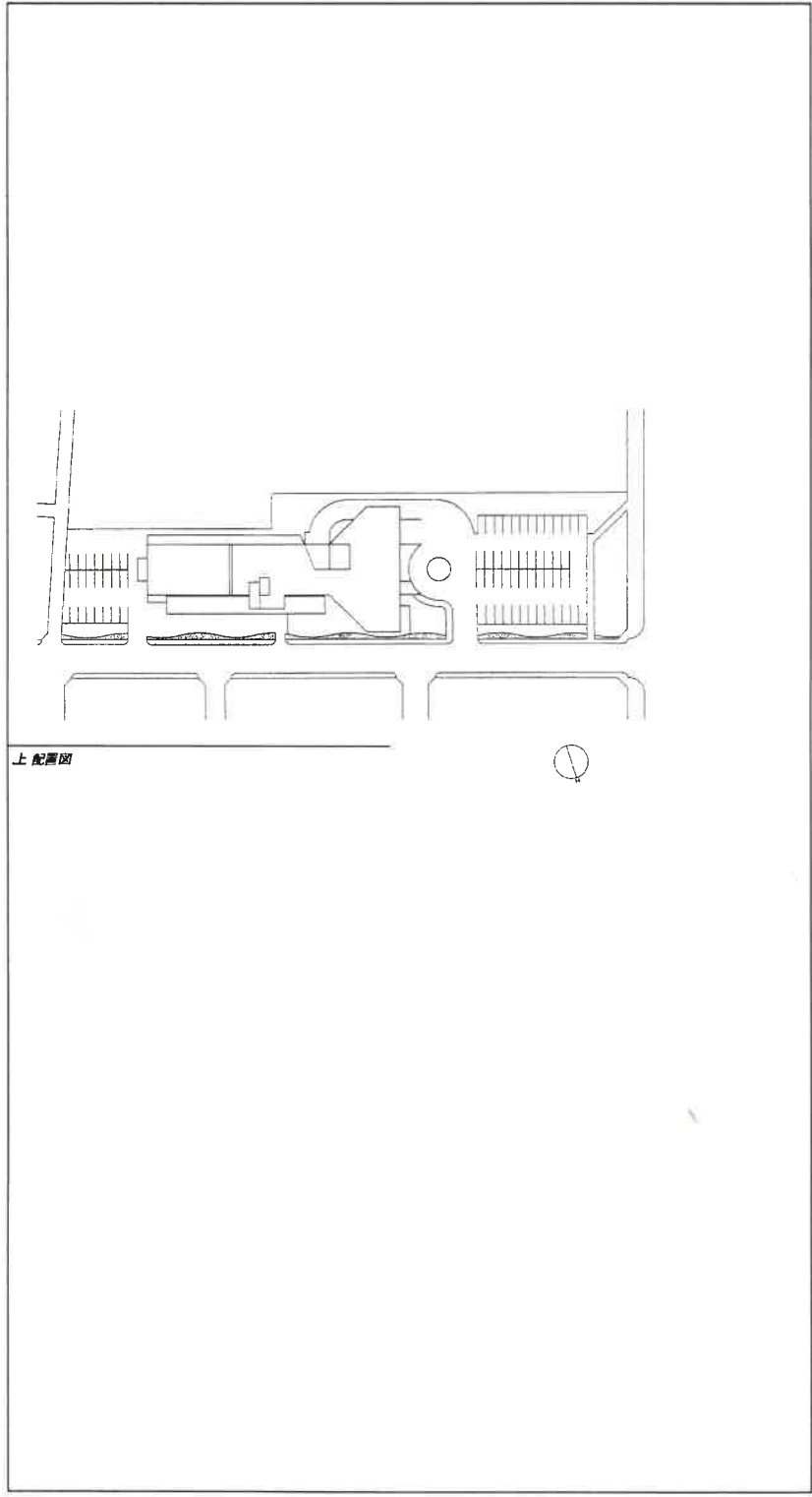
西側の道路に面する大きな逆三角形の部分はガラス張り。一番大きな最上階は柔道・剣道場になっている。



篠原一男プロフィール
 1925年生れ。1953年東京工業大学建築科卒業。同大
 学教授を経て名誉教授。イエール大学、ウィーン工科
 大学の客員教授も務める。代表作「久我山の家」、
 「白の家」、「東京工業大学100年記念館」など。

1

1



上配画図

ってきた経験から、はじめ仮眠室をかなり奥まった、そして南に面した場所に設定したんです。ところが警察署の担当者から「廊下に沿って仮眠室が並んだほうが機能的でいい」という意見を得たんです。仮眠室だからベッドルームという雰囲気は必要ないというところでしょうか。当初複雑に入り組んでいた仮眠室のプランはまったく明快になっていったんですね。この機能に対するクールな対応は私の建築の考え方と重なる部分大きいわけで、びっくりさせられたんですね。

●この建築の脇には、グリーンベルトならぬウォーターベルトが計画されているとかがいましたが…。脇の道路からはじまって、周辺地域の環境に対する提案です。それにも増して、もっと大きな都市環境に対して働きかけているのが、かなり細長いこの建築がもっている方向性です。ちょうど矢のように街に軸を与えていくんです。「アーバンアクシス」とでも名付けたらいいんでしょうか。このような提案は私の建築設計では初めて行なう試みです。この軸はけっして権威的な力を表現しているのではない。街の中にある公共建築の本来もっていたような一種独特なパワーとでもいえるんでしょうか。これがやがて周囲の街の空気に間接的に影響を与えていくことがあればと思っています。それにこのような街づくりの手法が「くまもとアートポリス」の企画に込められているのではないのでしょうか。

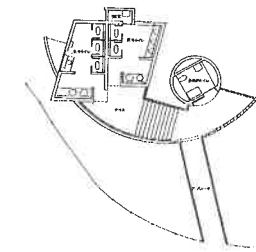
photo K.Kobayashi

参加プロジェクト紹介

水前寺江津湖公園公衆トイレ

熊本市神水本町16-11

設計 日田兆



12

施工 吉城建設
竣工 1989年4月予定
構造 RC造 / 地下1階
延床面積 46.8m²
建築面積 46.8m²

くまもとアートポリス参加プロジェクトの完成第1号はこの公衆トイレだ。

水前寺公園に流れ込む水系の江津湖。そのほとりにこのトイレがある。大きな円形の壁に囲まれ、身障者用のトイレブースとステップを上った男女のトイレという構成。

大規模な公共建築から小さなトイレまでが、その対象になるのが「くまもとアートポリス」のひとつの大きな特徴だが、ここではこの建築が建てられている江津湖の周辺を見てみよう。

ほとりにたつと水鳥の群れが羽根を休め、湖面に浮かんでいるのが見える。透明な水を通して水藻がゆるやかに流れにびいている。浮き草や湖岸の草には小さな虫が生息しているようだ。

江津湖は阿蘇の雄大な斜面に降り注いだ雨水を集めたわき水がその源。しかし、近年の周辺開発で水が汚れはじめ都市の中にあつて貴重な自然が失われようとしている。

街の中心部からくるとなんとなく雑然とした湖の周りの料亭や茶店も自然の一部のように目に映らないこともないが、ボート乗り場の近くや、川の流れ込むあたりは確実に汚れが進んでいるようだ。

今回のトイレ新築は大きくいえば、古くなったトイレの建て替え以上に周辺環境保全の一環としてあるようだ。この建築がひとつのきっかけになればと思う。

この江津湖の整備は都市と自然の共生の在り方を考えるための重要なケースと考えることもできよう。

日田兆プロフィール

1954年熊本県玉名市生れ。1978年熊本大学大学院終了。東デザイン事務所を経て、1986年ひたや建築工房設立。

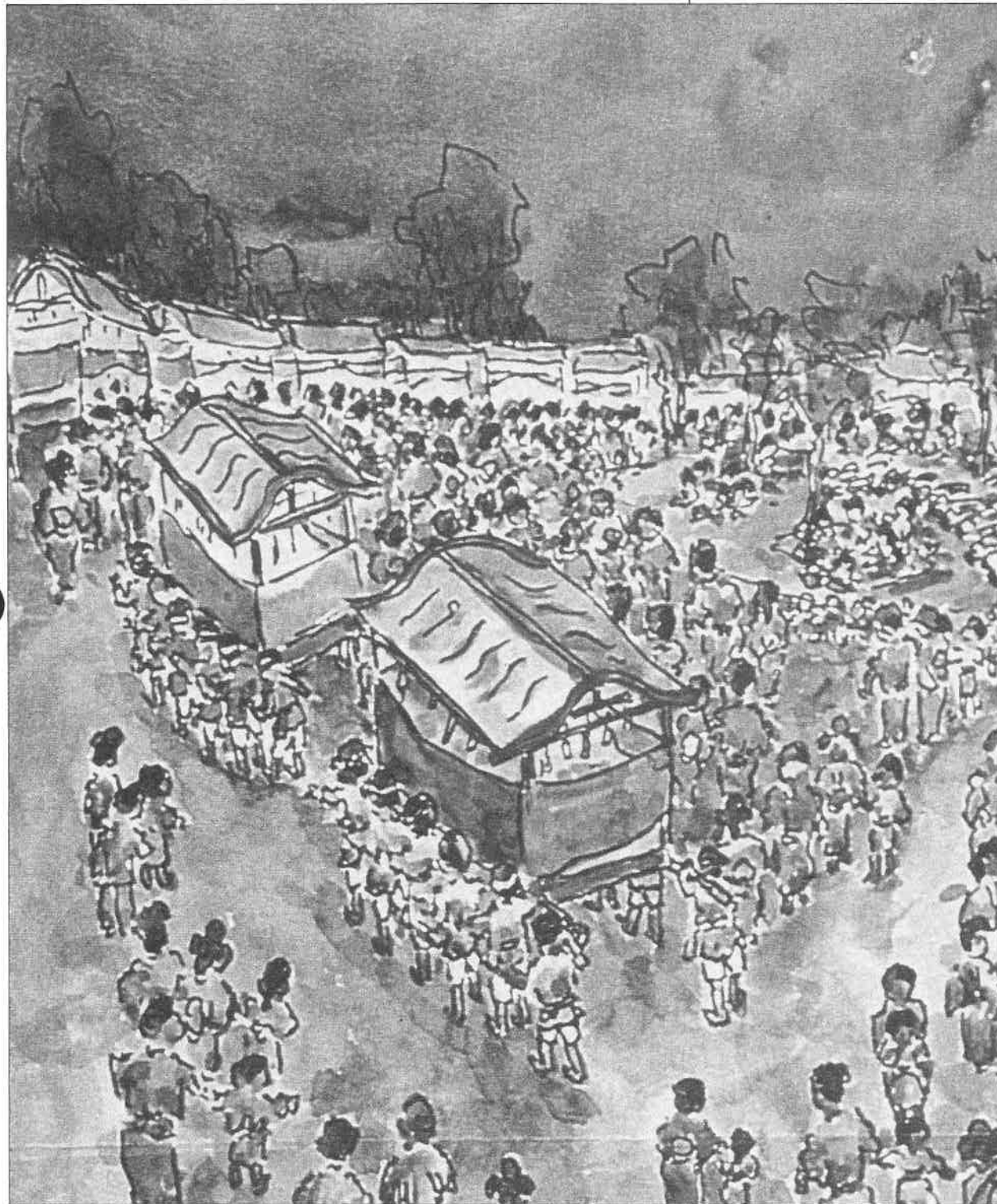
13



01

参加プロジェクト紹介

山鹿市 光のまちづくり計画



14



左 上り灯籠「夜あかし祭」(大代寅次郎 画業より)
上 山鹿灯籠民芸館 / 中 八千代座 / 下 桜湯



15

まちづくりが「くまもとアートポリス」の対象となっているのが、この山鹿市。

温泉と山鹿灯籠、そして1400年前の装飾古墳で広く知られている山鹿市。熊本県北部に位置する人口3万8千の都市である。

バスターミナルや市街地再開発による温泉プラザが集まる市の中心部には、そのほか「山鹿灯籠民芸館」や「八千代座」があり、文化的な中心部をもなしている。そしてその周りに造り酒屋の土蔵の白壁がのこり、西側には温泉街が位置する。

このような資源をもとに「灯籠」の光に因んだまちづくりが進められているのだ。

すでに温泉プラザ周辺のストリートファニチャーや商店街のペープメント、街灯などがつくられはじめているが、長期的な山鹿全体のまちづくりのプログラムづくりが、今回のくまもとアートポリスの一環として考えられることになった。

市の北、熊入地区の丘陵に計画されているカルチャースポーツセンターなどと合わせて、夜の灯籠の光のイメージにとらわれずに、昼の陽光のイメージもふくめた光のまちづくりの提案が練られている。

山鹿灯籠民芸館；山鹿灯籠は大宮神社に奉納する灯籠に給まるが、木や金物を一切使わず、和紙と糊だけで建物などのミニチュアをつくる山鹿独自の工芸。ここには山鹿の歴史的建築、八千代座や桜湯などが展示されている。

01